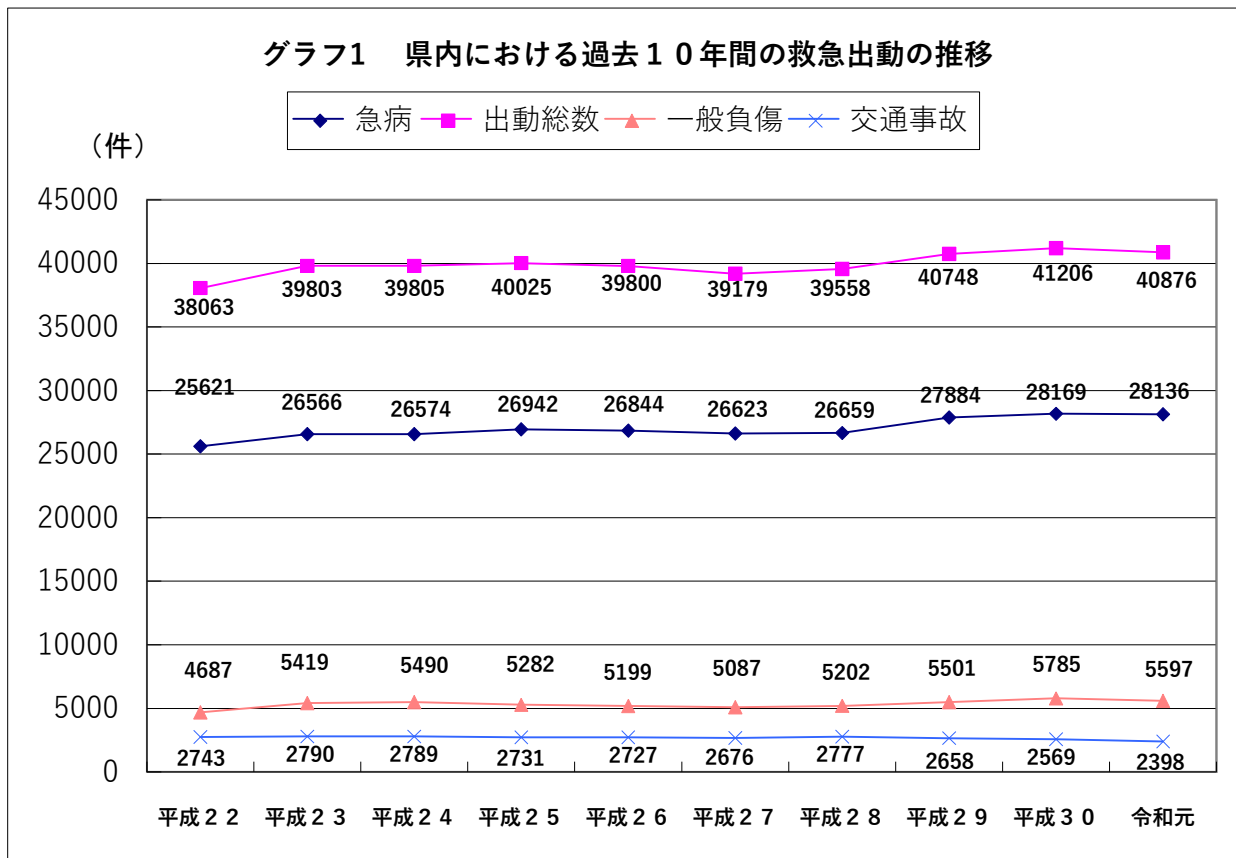


救急・救助

1 救急業務の概況

救急業務については、昭和38年の消防法の改正により、救急隊による傷病者の搬送業務が制度化されて以来、救急出動は年々増加傾向にあり、過去10年間で約1割増加している。



なお、令和2年4月1日現在における救急体制は、13本部で救急車86台(うち高規格車84台)、救急隊員1,350名(兼務発令者を含む。うち救急救命士有資格者437名)となっている。

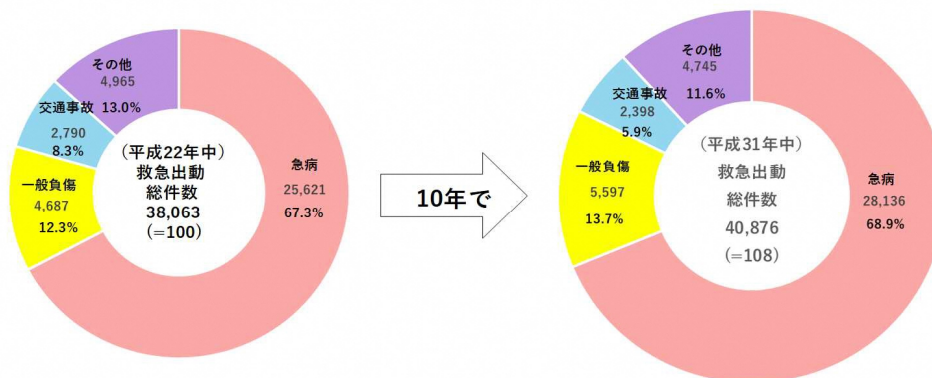
別表

消防本部	救急隊数	救急自動車数(台)			救急隊員数(人)		
		計	高規格	その他	計	救急救命士	その他
鹿角広域行政組合消防本部	4	4	4	0	67	24	43
大館市消防本部	4	4	4	0	86	31	55
北秋田市消防本部	5	5	5	0	91	32	59
能代山本広域市町村圏組合消防本部	8	9	9	0	141	46	95
湖東地区行政一部事務組合消防本部	3	3	3	0	55	21	34
五城目町消防本部	2	2	2	0	28	12	16
男鹿地区消防一部事務組合消防本部	7	8	8	0	109	31	78
秋田市消防本部	9	12	12	0	174	56	118
由利本荘市消防本部	8	9	9	0	130	39	91
にかほ市消防本部	2	3	3	0	46	18	28
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	11	12	10	2	182	56	126
横手市消防本部	7	8	8	0	141	48	93
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	6	7	7	0	100	23	77
合計	76	86	84	2	1350	437	913

(1) 救急出動

平成31年(令和元年)中の救急出動は40,876件となっている。
 事故種別で見ると急病が最も多く28,136件で全体の68.8%を占め、次いで一般負傷5,597件(13.7%)、交通事故2,398件(5.9%)の順となっており、これを10年前と比較すると全体で2,813件(約6.9%)の増である。(グラフ2)(第1表)(第4表)(第7表)

グラフ2 県内における救急出動状況



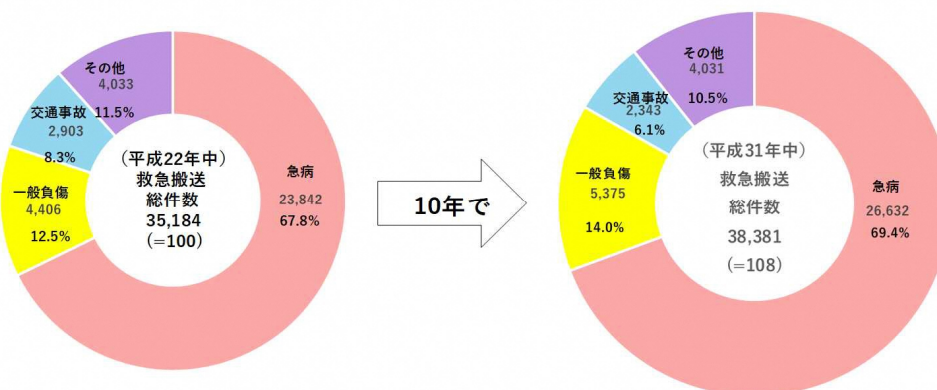
← 2 3 →

これを月別にみると、8月が4,037件で最も多く、次いで1月が3,842件となっている(第4表)。

(2) 救急搬送

平成31年(令和元年)中の傷病者等の搬送人員は38,381人となっている。
 事故種別で見ると救急出動同様に急病が26,632人で全体の69.3%を占め、次いで一般負傷5,375人(14.0%)、交通事故2,343人(6.1%)となっており、これを10年前と比較すると全体で3,197人(約8.3%)の増である。(グラフ3)(第1表)(第2表)(第7表)(第8表)

グラフ3 県内における救急搬送状況



年齢階層別では高齢者(65歳以上)が26,966人で最も多く全体の70.3%を占め、次いで成人(18歳以上65歳未満)9,481人(24.7%)、少年(7歳以上18歳未満)963人(2.5%)、新生児・乳幼児(満7歳未満)971人(2.5%)となっている。(第5表)

傷病程度別では軽症(入院加療を必要としないもの)が17,597人で最も多く全体の45.8%を占め、次いで中等症(3週間未満の入院加療を必要とするもの)が12,186人(31.8%)、重症(3週間以上の入院加療を必要とするもの)7,454人(19.4%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)1,124人(2.9%)となっている。(第5表)

(3) 応急処置等

① 応急処置件数

平成31年(令和元年)中における救急隊員が行った応急処置件数は、154,703件であった。内容別でみると血中酸素飽和濃度測定が36,429件で全体の23.5%を占め、次いで血圧測定35,844件(23.2%)、心電図30,257件(19.6%)の順となっている。(第3表)

② 応急手当の救命効果

平成31年(令和元年)中における救急隊が搬送した心肺停止傷病者のうち、家族等により応急手当が実施された者の1か月生存率は、県平均で4.2%であった。(第9表)

